

こども目線でももしろさを探そう！

こどもケンチクの新聞

第15号 (前編)
2022年6月
編集発行：こどもケンチク新聞社

この人に聞きたい



建築家 馬場正尊さん

ケンチクってなんだろう？

建築家になろうって思ったのはいつですか？

僕は小学生の頃積み木でいろんな街を作って遊ぶのが好きでした。その頃はまだ建築家という職業を知らなかったけど、「街や風景を作れる仕事っていいな」と思っていて、それが建築を初めて意識した時かもしれない。

リノベーションの面白さは

僕は今まで古い建物をデザインで再生させる仕事を20年近くしてきました。その時に「古い建物も味があっていいんじゃない。いい所たくさんあるんじゃない」って、気がついたんです。古い建物には、今までそこに開けられていた人たちの思いや記憶が込められています。だから、その人たちがその建物で過ごした過去の時間と会話しながらデザインできるのは、リノベーションの面白いところなんです。

自分の作品で好きなもの

この事務所も好きです。ここはもともと倉庫でした。ずっと空いていたのを、もったいなさと思っていました。そんな時、古い建物を違う使い方に変えるプロジェクトをしていて、「そういえばあの倉庫空いていた」と思い出して、Open Aを実験台にしてここに「働き方のショールーム」みたいにしてしようと

今号では、このケンチク新聞誕生のきっかけとなった、馬場正尊さんのオフィス Open A (オープン・エー) に伺いました。インタビュアーを前編、オフィスのリノベーション空間の体験を後編で紹介します。

思いました。「こんな働き方、こんな空間にもできるよ」と。この家具も、もとはゴミです。それ以外にもこの場にはたくさん再生品があります。この事務所もまだ「工事中」です。(*注…Open Aの空間とそこで記者たちがした体験については、新聞後編で紹介します)

デザインをする時に何を一番大切にしていますか？

その空間、その場所で、そこに関わる人達が楽しくなったり、嬉しくなったりすることかな。そこに居るとなると「居心地がいい」「会話が弾む」「ご飯が美味しい」とか。そういう場所が作ればいいと思っています。公園の設計とか多いからかもしれない。あと新しい発見があって、生活の可能性が広がるようなことが好きです。例えばここだったら「あ、倉庫ってオフィスになるんだ」とかね。

自分にとっての建築物を食べ物にたとえらるって？

お米です。お米は普通に炊いたり、チャーハンにしたり、他のものを混ぜたり、こってりリゾットにもできるように、建築も解釈や使い方の幅がとても広いものだと思います。そして、お米をおにぎりにする国もあればカレーライスにする国もあるように、文化や歴史によっていろいろ工夫が加わって変わります。

2019年8月に伊東建築塾子ども建築塾卒業生・塾生と愛媛県立今治北高等学校大三島分校の生徒たちが集まり「建築スクール」が開催されました。そのときの講師の一人が馬場正尊さんでした。その際の課題は大三島の大山祇神社参道の古い建物のリノベーションと、屋台作り。当時小学生チームであった記者たちがケンチク新聞を作るきっかけになった、思い出深い合宿です。



す。そのベーシックな、人間の生活や営みを支える基礎的なものが建築だと思います。僕らの生活にとって必要不可欠ということも考えると、「お米」みたいなものかなと思います。



「コミュニケーションのために建築ができること」は

人が集まりたい、と思える場所を作ること。それは建築の大きな役割です。だから、人々が集まりやすく安心して暮らせる・守られるような空間。それが作りたいですね。あと、小さい時に経験して大人になった時、また戻っていきたくて思う空間。そのように記憶や印象に残るような建築を、作れるといいなと思います。

建築の面白さを人に伝えるには

まず、建築のある場所に一緒に行ってみる。そして、そこについて「ここは居心地がいいね」とか、「このかたち面白い！」とか話しながら、人によって感じ方は全然違うはずだし、その場所を一緒に味わうことで建築

一番挑戦したい夢は？

「建物と自然の中間」「建築と自然が混ざり合ったような」建築を作ってみたいと思います。人間はこの百年で自然を破壊して、ガラスと鉄とコンクリートで都市を作ってきました。でも最近はコロナもあって、みんな緑の中や心地よい空間にいたいと感じるようになってきました。もしかしたら人間は「都市をもう一度自然に戻そう」と思うんじゃないかな。でも一度手に入れた便利な生活は手放せないと思うから、人間が作る建築と人間が守るべき自然が融合したような新しい「自然の建築」っていうものを、そういう新しい風景を作りたいと思っています。どんな風景かわからないけど、その未知なものに向かって考えていくこと自体が楽しいと思っています。

子ども達にメッセージをお願いします。

まず、いろんなことにチャレンジしてほしいです。そこでやる経験が、その後の人生に繋がってきます。僕も、建築の仕事が始める前は広告の仕事をしていました。その経験が今、全部役に立っています。一回回り道だったように見えるものが自分を作っていくと思えます。あと、「これがやりたい」のほかに、「世の中でどのように役に立てるんだろう」と自分で考えると、みんなどこかで自分を必要としてくれることに気付ける。みんなで作る、みんなが働く、みんなが考える、あらゆることの基本はそこかもしれない。

リノベーションについてのお話と、馬場さんのオフィスOpen Aでの記者たちの空間体験は、後編(7月号)に続きます。